

会 議 録 要 旨

会議名	令和5年度 第4回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時	2023年（令和5年）11月20日（月）午前9時59分～午前11時45分	
開催場所	本庁舎5-1、5-2会議室	傍聴者数
		1人
出席者	会長	杉 洸 武
	委員	稲田 圭祐 齋藤 力良 渡井 大輔 小林 敦子 船橋 國比古 宮治 八千代 橋本 修 深澤 潤子 矢出 乃大
	事務局	近藤下水道部長 [下水道総務課] 張ヶ谷参事 草柳主幹 指旗主幹 鈴木主幹 工藤補佐 小松補佐 鈴木補佐 外山専任補佐 吉原専任上級主査 佐々木主査 東嵩西主任 中島 中澤 近藤 [下水道管路課] 中村課長 山口補佐 矢口補佐 [下水道施設課] 濱野参事 竹内辻堂浄化センター長 佐藤大清水浄化センター長 田中補佐 鷺塚補佐 斉藤補佐 山村補佐
議題及び公開・非公開の別	1 ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の達成状況（令和5年度中間実績） その他 （すべて公開）	
非公開の理由		
審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>1 ふじさわ下水道中期経営計画【年次計画】の達成状況（令和5年度中間実績） 資料1・次回審議会資料（サンプル）に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>(1) 施策1の包括的民間業務委託について、3年間の予定で、維持管理業務の効率化、効果的な運用体制化ということと、住民サービスの向上につなげるということだが、金額、工事、サービスのスピード感など具体的に示してほしい。また物価上昇等の影響で予算不足になった場合の対応方法を伺いたい。</p> <p>《回答》</p> <p>工事や修繕や維持管理業務について、従来は年度単位で発注していましたが、包括的民間委託では年度の区切りなく、3年の中で受託者の裁量で実施することができるので自由度が増し年間を通じてスピード感を持った工事の対処ができると考えています。また物価の変動により金額が変わる案件が生じた場合は、受託者と市で協議して、変更契約を行うことを考えています。</p> <p>(2) 中期経営計画では複数年にわたって一括委託することによって効率的にいろいろな対応ができるということが良いか。</p> <p>《回答》</p> <p>効率的に進めることができます。なお、管路施設につきましては、現在プロポーザル公募を実施して、受託者を決定している最中であり、今後どのような体系、進め方をするか協議しながら進めていきたいと考えています。</p> <p>(3) 「ストックマネジメント」とタウンニュースに掲載されている「アセットマネジメント」という言葉の違いはどう考えたら良いか。</p> <p>《回答》</p> <p>ストックマネジメントはアセットマネジメントの一部と捉えております。老朽化対策のマネジメントをしっかりと行うという意味でも、包括的民間委託により人材を確保していくことを考えています。</p>	

審議等の概要

(4) 管きよについて、中期経営計画のP.22では「アセットマネジメント手法に基づく修繕・改築」とある。それを受けてストックマネジメント計画につなげていくということで良いか。

《回答》

ストックマネジメントはアセットマネジメントの一部と考えておりますので、一緒に進めていきたいと考えています。

(5) 中間実績を見ると概ね順調に進んでいると思うが、現時点で今年度は実施見込みに届かない予測が立っている施策があるか。

《回答》

施策6の緊急輸送道路や幹線管きよのマンホールの浮上診断は600基程度実施する見込みでしたが、専門業者への聞き取りや施工性など考慮した結果、中間実績は430基としました。次年度以降挽回し、実施していけると考えています。施策12の下水道未普及地域の管路整備は、計画は2.7haでしたが予算は5.12haの予定でした。中間実績は2.74haで、約半分となっています。これは発注したものの、技術者不足により受注者が決まらないという状況によるもので、効果が発現出来る手法を探し事業を実施していきたいと考えています。施策2の浄化センターポンプ場機器等調査は、実施見込み81点に対して、中間実績は2点で進捗状況は2%となっていますが、未実施の部分はすでに契約済の委託でこれから実施していく予定です。

(6) 技術者が少ないという点は、事業者が多くないということか。

《回答》

土木工事の業者において、現場代理人や作業員が少なくなってきており、特に下半期になると様々な工事があるため人材の確保に苦慮している状況と把握しています。

(7) それは管路工事が中心か、それとも排水設備も含めてか。

《回答》

そのほかの工事についても不調が多く発生している状況です。

(8) 施策15の事業19、広報促進事業、見える化・見せる化の推進の一環として、工事の案内板にどのような工事を行っているか、工法など絵や図等加え、見える化してはいかがか。

《回答》

地域の皆様に分かりやすくできるか、ご意見を踏まえ検討してまいります。

(9) 工事を行うときは、町内会や地域の方に説明はしているのか。

《回答》

自治会長と調整を行い、案内チラシを配布して事業を行っています。

(10) 施策2のストックマネジメント計画の更新という表記について、行った内容について評価したり見直しが必要かどうかを詰めた上での計画の更新になると思うので、もう少し含みを持たせた表現の方がいいのではないか。

《回答》

実行した内容など細かく記載するようにいたします。

《意見》

何を計画して、何をやって、何が問題なのか、後々分かるようにしておいた方がよい。そうすることで、問題点が整理でき、密度が上がっていくと思う。

(11) 下水だけでなく市全体に関することだが、業務委託において作業員が少なく工期が遅れているなどの問題が起こった際に、市が関われば事業がスムーズに進むということもあると思う。業者に丸投げということではなく指導者としての機能を期待したい。

《回答》

委託に関しては、仕様に基づき工程管理、品質管理を実施しています。現在は委託業者が決まらないという問題があり、魅力ある入札のパッケージや、工期的な余裕があると業者も決まりやすいため、早期発注に努めてまいります。

<p>審議等の概要</p>	<p>(12) 落札業者がないというのは、入札を行うにあたり、予算が足りないことが原因か。</p> <p>《回答》 予算については、発注時に見積りを徴取したり、一定の基準書に基づいて適切な積算を行っていますが、年度末を迎え工期が少なくなると受け手側の人員配置の関係上、入札に参加しないというケースが近年顕著になってきています。下水道事業だけでなく道路等も含め建設業者の数が少なくなったことが一つの要因と思っており、藤沢市の事業を受注していただけるように、建設業協会さんと意見交換させていただくことや、3年間の予定で実施する包括的民間委託などで人材不足を解消していきたいと考えています。</p> <p>(13) 公共工事は年度末に行うイメージがあるが、今でもそういう状況なのか。</p> <p>《回答》 市は単年度会計のため、予算を4月から3月までの中で執行することが原則です。4月以降に設計、発注の手続きが始まるため下期に集中してしまいます。そのため、近年は債務負担行為という方法により、前年度中に発注手続きを進め、均等に発注する対策もとっています。</p> <p>(14) 入札不調には、参加者がいなかった不調と、積算額が市場単価と見合わなかった不調と2種類あるので整理しておいた方が良いと思います。 建設労働者が少なくなっていることは、民間の協力や外国人労働者の受け入れという政治や経済に関わる事柄になるので地方、県、国レベルで雇用の需給問題を考えていかなければならないと思います。</p> <p>(15) 善行地区においてバリアフリー化の道路工事の際に、道路整備すると雨水が溢れてしまうため、下水道の工事が必要になると聞いた。予算が大々的になるとのことではあるが、一緒に工事してもらえるとよいと感じた。</p> <p>《回答》 道路の整備の方法によっては雨がたまりやすくなることから、整備の仕方や、予算の範囲など、一番良い形で整備できるよう道路部局と調整させていただいております。</p> <p>(16) 施策7の下水道BCP教育訓練の実施について内容を伺いたい。</p> <p>《回答》 災害時に業務を継続していくため、下水道部の職員がどのように対応していくか訓練を行いました。管路は被災時に緊急的な点検や調査など行います。そのためマンホール蓋の開け方や、マンホールの中に水が滞水した場合の対応を職員が情報共有し、作業方法を学びました。</p> <p>(17) 工事を施工する業者が減少している中で、年度末に集中しないよううまく業者を使えないのか。</p> <p>《回答》 4月から工事の発注をしているため、少しずつ改善していこうという意識は持っています。上半期の執行で見えてきた課題を踏まえ次年度の設計準備を進めるなど工夫を行っています。また、包括的民間委託で、長期間での発注を行うことも課題の解消につながると感じており、いろいろな取り組みをしながら進めてまいります。</p> <p>(18) 包括的民間委託の契約が年度途中で終わることになるが、このように設定した理由について教えてほしい。</p> <p>《回答》 契約は、公募型のプロポーザルで、公募期間を長くとる必要があったことから、契約の時期が10月になりました。</p> <p>(19) サンプルの達成目標の評価について○、◎の記号の点数方式にされた理由と、誰がどのように点数化するのかということをお願いしたい。</p>
---------------	---

<p>審議等の概要</p>	<p>《回答》 点数化ですが、100%以上は5点、80%以上は4点など、誰が見ても点数化できる表記を検討しました。また、点数ではなく、◎、○、△、×の記号の表記とすることも検討しています。 評価者については、各担当が資料1で数値の報告を行い、アセット・経理担当で数値を点数化していくことを考えております。</p> <p>(20) 裏面のレーダーチャートの利点は、パーセンテージで値がとれることから、なるべく主観的なものは排除するほうが正確なため、達成目標もパーセンテージ評価がよいと思う。</p> <p>《回答》 参考にさせていただき、検討いたします。</p> <p>(21) 評価の決定には、委員会などをつくるのか。</p> <p>《回答》 下水道部の部長、課長等で組織した経営会議があり、現在はその会議で報告しながら進めていますので、今後も同様に進めたいと考えております。</p> <p>(22) 部内の中で共通理解を深めていくということが良いか。</p> <p>《回答》 はい。そのとおりです。</p>
<p>その他</p>	<p>1 下水道PR事業の報告について【施策15関連】</p> <p>2 災害時の応急対応業務に関する協定について【施策7関連】</p> <p>(23) 協定の期限はあるのか。</p> <p>《回答》 基本的には単年度ですが、お互いから申入れがない限り自動継続です。</p> <p>(24) 災害時の機能停止を最小限と記載してあるが何日ぐらいを想定してるか、大震災になると水の復旧が先だと思うが水道との連携はあるのか。</p> <p>《回答》 本協定は応急復旧の想定で、被災時に溢水することなく流すことが出来るよう水を汲み上げる機能を担保することを目的としています。 水道との連携は市全体として地域防災計画を作っており、その中で水道局に復旧や給水車の確保といった連携をしています。 下水に関しては市の方針として袋式トイレを避難所等に備蓄してます。その次に一週間程度を目安として下水道が使えるように対処することとしています。</p> <p>(25) 中期経営計画の年次計画の各施策の中で、今の協定はどこに位置付けることを考えているか。</p> <p>《回答》 施策7、大規模地震に備えた事前予防対策の導入と推進（ソフト対策）の一番下の下水道BCPの進行管理での位置付けと考えております。</p> <p>(26) そこに書いてある応急対応業務協定というのが今回のものに当たるということか。</p> <p>《回答》 そうです。</p> <p>3 包括的民間委託の進捗状況について【施策1関連】</p> <p>4 令和5年度藤沢市下水道運営審議会日程（第5回）</p>